

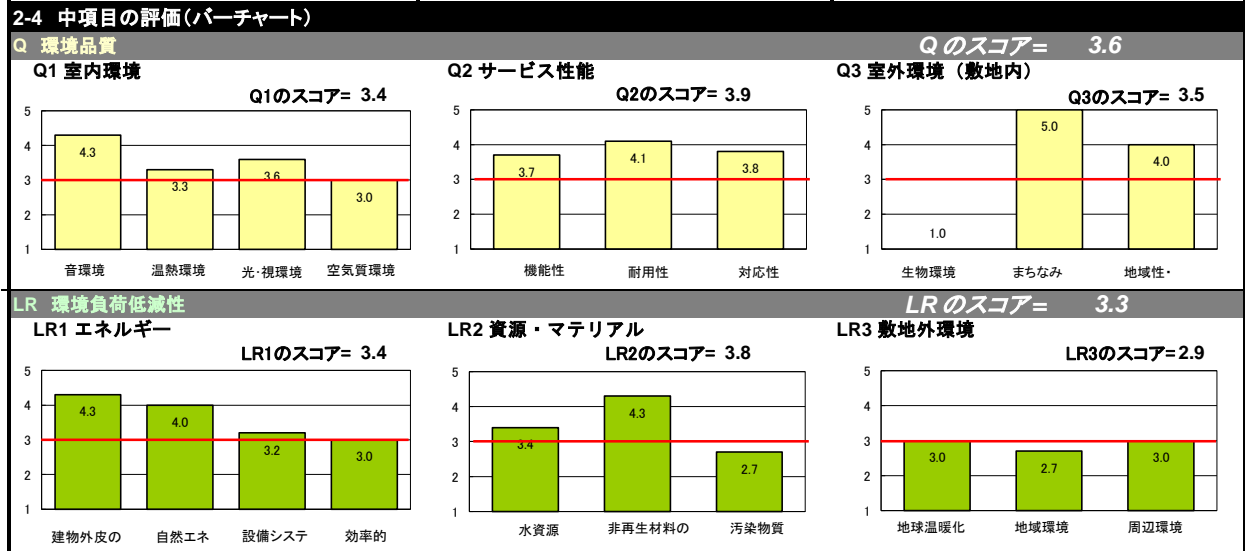
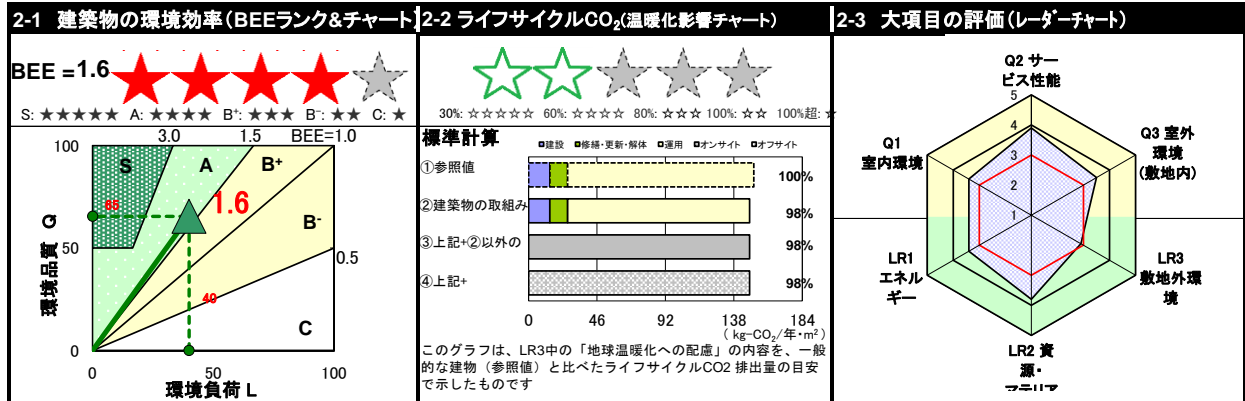
CASBEE神戸ver.2





評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.2

〔使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_NC_2014(v.3.1)〕

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	神戸阪急ビル増築工事	階数	地上29F地下3F		
建設地	兵庫県神戸市中央区加納町4丁目2	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	4,803 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年		
建物用途	事務所、飲食店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2017/4等		
敷地面積	7,106 m ²	作成者	沼田、山田		
建築面積	6,354 m ²	確認日	2017/4等		
延床面積	35,288 m ²	確認者			



3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画  3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震  4.8 Q-2/2.4 信頼性  3.0	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮  5.0
配慮の概要 時刻対応解析により大臣認定を取得している。また制振構造の採用、耐風用制振装置の導入により居住性を確保している。	配慮の概要 神戸の玄関口に相応しいランドマークとなり、震災からの神戸復興のシンボルとなるよう、低層部は旧神戸阪急ビルの外観を再生する。高層部は低層部を引き立てるようシンプルで陰影のある影の深いデザインとする。1階廻りは、「まち」への繋がりを強化するために、開放的な広場上のコンコースを大きく確保し、北側アモール広場との一体感を強化する。これらの景観配慮に	配慮の概要 神戸の玄関口に相応しいランドマークとなり、震災からの神戸復興のシンボルとなるよう、低層部は旧神戸阪急ビルの外観を再生する。高層部は低層部を引き立てるようシンプルで陰影のある影の深いデザインとする。1階廻りは、「まち」への繋がりを強化するために、開放的な広場上のコンコースを大きく確保し、北側アモール広場との一体感を強化する。これらの景観配慮に
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される